

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期
科 目 名	解剖生理学 I	単 位 数 (時間数)	2 単位 (45 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中島 民治 (前産業医科大学産業保健学部・准教授・解剖学教育 33 年)		

<科目目標>

運動や消化・吸収、呼吸と循環を担う人体の器官やその構造と機能について理解する。

<概要>

人・人体と向き合う医・歯学、看護学の専門教育において全ての学習基盤である人体の基本的な成り立ちを習得することを本科目のねらいとする。

人体の様々な病態を理解するためには、その体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を熟知しなければならない。このため解剖・生理学は他の多くの科目と関連している。特に生化学、病理学、病態生理学等の基礎科目はもとより多くの臨床科目と密接な関連があり、その礎となっている。

人間は生命活動、日常生活行動を行っている。それらをどのような構造と機能で営んできているのかを理解する。これらのことから看護を実践する上での基礎知識と位置づける。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1) 人体とはどのようなものか：身体的特徴	講義
2	2) 人体の素材としての細胞・組織 1 3) 人体の素材としての細胞・組織 2 4) 構造と機能からみた人体	講義
3	2. 身体の支持と運動 1) 骨格とはどのようなものか、骨の連結	講義
4	2) 骨格筋、筋の収縮	講義
5	3) 体幹の骨格と筋	講義
6	4) 上肢の骨格と筋	講義
7	5) 下肢の骨格と筋	講義
8	6) 頭頸部の骨格と筋	講義
9	3. 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道の構造と機能	講義
10	2) 腹部消化管の構造と機能	講義
11・12	3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、腹膜	講義
13	4. 呼吸と血液のはたらき 1) 呼吸器の構造	講義
14・15	2) 呼吸	講義
16・17	3) 血液	講義
18	5. 血液の循環とその調節 1) 循環器系の構成、心臓の構造	講義
19・20	2) 心臓の拍出機能	講義
21	3) 末梢循環系の構造	講義
22・23	4) 血液循環の調節 5) 循環器系の病態生理、リンパとリンパ管	講義

授業の進め方

1. 人体の構造と機能をマクロ（肉眼解剖学）からミクロ（組織細胞学）まで系統的に概説する。
2. 臨床医学的側面より見た人体の局所解剖学的特徴について概説する。
3. 人体の解剖生理学的な特徴と疾患・病態生理との関連を理解させる。
4. 人体の発生について個体発生と系統発生の両面から概説する。
5. テキスト（解剖生理学：医学書院）を中心に講義を行う。
6. 講義は板書を中心にスライド、模型、ホワイトボードなどを適宜活用しながら進める。
7. より確実に深い理解を得られるように適宜補足資料を用いる。
8. 23 回目の講義は 45 分で実施する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

評価方法

1. 筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名	解剖生理学Ⅱ	単 位 数 (時間数)	2 単位 (45 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中島 民治 (前産業医科大学産業保健学部・准教授・解剖学教育 33 年)		

<科目目標>

体液の調整や情報の受容と処理、外部からの防御、生殖に関する人体の器官やその構造と機能について理解する。

<概要>

人・人体と向き合う医・歯学、看護学の専門教育において全ての学習基盤である人体の基本的な成り立ちを習得することを本科目のねらいとする。

人体の様々な病態を理解するためには、その体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を熟知しなければならない。このため解剖・生理学は他の多くの科目と関連している。特に生化学、病理学、病態生理学等の基礎科目はもとより多くの臨床科目と密接な関連があり、その礎となっている。

人間は生命活動、日常生活行動を行っている。それらをどのような構造と機能で営んでいるのかを理解する。これらのことから看護を実践する上での基礎知識と位置づける。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1～4	1. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓の構造と機能 2) 排尿路	講義
5	3) 体液の調節	講義
6	2. 内臓機能の調節 1) 自律神経による調節	講義
7	2) 内分泌系による調節	講義
8・9	3) 全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義
10	4) ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際	講義
11	3. 情報の受容と処理 1) 神経系の構造と機能	講義
12	2) 脊髄と脳1	講義
13	3) 脊髄と脳2	講義
14	4) 脊髄神経と脳神経	講義
15	5) 脳の高次機能、運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路	講義
16	6) 目の構造と視覚	講義
17	7) 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、疼痛 (痛み)	講義
18	4. 外部環境からの防御 1) 皮膚の構造と機能、体温とその調節	講義
19	2) 生体の防御機構	講義
20	5. 生殖・発生と老化のしくみ	講義
21	1) 男性生殖器	講義
22	2) 女性生殖器	講義
22	3) 受精と胎児の発生 1	講義
	4) 受精と胎児の発生 2	講義
23	5) 成長と老化	講義

授業の進め方

1. 人体の構造と機能をマクロ（肉眼解剖学）からミクロ（組織細胞学）まで系統的に概説する。
2. 臨床医学的側面より見た人体の局所解剖学的特徴について概説する。
3. 人体の解剖生理学的な特徴と疾患・病態生理との関連を理解させる。
4. 人体の発生について個体発生と系統発生の両面から概説する。
5. テキスト（解剖生理学：医学書院）を中心に講義を行う。
6. 講義は板書を中心にスライド、模型、ホワイトボードなどを適宜活用しながら進める。
7. より確実に深い理解を得られるように適宜補足資料を用いる。
8. 1回目の講義は45分で実施する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

評価方法

1. 筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期																																																
科 目 名	生化学	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	藤岡 竜太 (別府大学短期大学部食物栄養科・准教授・6 年)																																																		
<p><科目目標> 生命維持活動を行っている人体を細胞レベル・分子レベルで理解する。</p> <p><概要> 生化学は人の身体的理解(解剖生理学)を基礎として、人間の身体内における物質(栄養素)の変化から生命現象の維持やホメオスタシスについて学習します。生化学の基本は健康な人の身体内における物質代謝を学ぶ学問であり、看護の目的である疾病との関連を知るためにも、その基礎となる栄養素の体内での変化(物質代謝)を理解することは重要です。加えて、遺伝子の情報に基づく物質の変化を理解することも必要となります。</p> <p>栄養素といわれる糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミン等について定義、分類し、化学性、物質名、働きを学習するとともに、生きるためのエネルギー獲得法、必要物質・老廃物の生成法を物質代謝の観点から分子レベル、遺伝子レベルで理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1. 生化学を学ぶための基礎知識</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>2. 代謝の基礎と酵素・補酵素</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>3. 糖質の構造と機能</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>4. 糖質代謝</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>5. 脂質の構造と機能</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>6. 脂質代謝</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>7. タンパク質の構造と機能</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>8. タンパク質代謝</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>9. ポルフィリン代謝と異物代謝</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>10. 遺伝子と核酸</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>11. 遺伝子の複製・修復・組換え</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>12. 転写</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>13. 翻訳と翻訳後修飾</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>14. シグナル伝達</td><td>講義</td></tr> <tr><td>15</td><td>15. がん</td><td>講義</td></tr> </tbody> </table> <p>授業の進め方 生命の維持に必要な物質(栄養素等・水・食物繊維)を学習し、それらが体内において代謝されエネルギーを得る過程、老廃物となる過程を憶えていきます。また、遺伝情報、細胞のシグナル伝達についてテキストにそって詳しく学習します。目に見えにくい反応なので理解しにくいかもしれませんが、テキストの図を参考に何度も読み返すことにより、理解していきましょう。テキストとプリントでポイントをおさえながら解説します。テキストを十分に活用して下さい。</p> <p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 (医学書院)</p> <p>評価方法 小テスト、終講時の筆記試験により評価する。</p>				回	授業内容	授業方法	1	1. 生化学を学ぶための基礎知識	講義	2	2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	3	3. 糖質の構造と機能	講義	4	4. 糖質代謝	講義	5	5. 脂質の構造と機能	講義	6	6. 脂質代謝	講義	7	7. タンパク質の構造と機能	講義	8	8. タンパク質代謝	講義	9	9. ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	10	10. 遺伝子と核酸	講義	11	11. 遺伝子の複製・修復・組換え	講義	12	12. 転写	講義	13	13. 翻訳と翻訳後修飾	講義	14	14. シグナル伝達	講義	15	15. がん	講義
回	授業内容	授業方法																																																	
1	1. 生化学を学ぶための基礎知識	講義																																																	
2	2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	講義																																																	
3	3. 糖質の構造と機能	講義																																																	
4	4. 糖質代謝	講義																																																	
5	5. 脂質の構造と機能	講義																																																	
6	6. 脂質代謝	講義																																																	
7	7. タンパク質の構造と機能	講義																																																	
8	8. タンパク質代謝	講義																																																	
9	9. ポルフィリン代謝と異物代謝	講義																																																	
10	10. 遺伝子と核酸	講義																																																	
11	11. 遺伝子の複製・修復・組換え	講義																																																	
12	12. 転写	講義																																																	
13	13. 翻訳と翻訳後修飾	講義																																																	
14	14. シグナル伝達	講義																																																	
15	15. がん	講義																																																	

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期～後期																																
科 目 名	栄養学	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①春田 典子 (別府医療センター・栄養管理室長) ②安藤 翔治 (別府医療センター・主任栄養士)																																		
<p><科目目標></p> <p>人間に必要な栄養・栄養素について理解する。また、現代の食生活の現状や問題点・健康障害時の食事に関する知識を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td>1. 栄養と栄養素 1) 栄養とは 2) 栄養素とは 3) 栄養素の分類：五大栄養素、三大栄養素</td> <td>講義</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2. 栄養状態の評価 1) 身体計測 身長、体重、体格指数(BMI)、皮下脂肪、体脂肪率等 2) 食事調査 3) 臨床検査 4) 入院時の栄養管理調査</td> <td>講義</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3. 日常生活と栄養 1) 食文化の多様性：世界、日本、地域、個人 2) 現代の食生活の特徴と問題点、解決策 (1) 肥満、やせ、過剰栄養、低栄養 (2) 生活習慣病 (3) 個食、孤食、欠食 (4) サプリメント (5) 食の安全性 (6) 解決策：食育、スローフード、地産地消等</td> <td>講義</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4. ライフステージと栄養 1) 乳幼児期 2) 学童期 3) 青年期 4) 成人期 5) 妊娠・授乳期 6) 更年期 7) 老年期</td> <td>講義</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5. 療養生活と食事 1) 検査のための食事 大腸検査、甲状腺機能検査、潜血検査、乾燥食、ヨード制限 2) 病院食 (1) 一般食：常食、軟食、流動 (2) 特別食：エネルギーコントロール、たんぱく質コントロール 脂質コントロール、ナトリウムコントロール、易消化術後食、化学療法時食、放射線療法時食 3) 嚥下障害のある人の食事 4) 経腸栄養剤：天然濃厚流動食、半消化態栄養剤、成分栄養剤</td> <td>講義</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6. 食事指導 1) 栄養士による指導：対象、方法、留意点 2) 看護職との連携</td> <td>講義</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>7. チーム医療と食事 1) 栄養サポートチーム(NST：nutrition support team) 2) 緩和ケアチーム、褥瘡ケアチームなど</td> <td>講義</td> <td>②</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	担当講師	1・2	1. 栄養と栄養素 1) 栄養とは 2) 栄養素とは 3) 栄養素の分類：五大栄養素、三大栄養素	講義	①	3	2. 栄養状態の評価 1) 身体計測 身長、体重、体格指数(BMI)、皮下脂肪、体脂肪率等 2) 食事調査 3) 臨床検査 4) 入院時の栄養管理調査	講義	②	4	3. 日常生活と栄養 1) 食文化の多様性：世界、日本、地域、個人 2) 現代の食生活の特徴と問題点、解決策 (1) 肥満、やせ、過剰栄養、低栄養 (2) 生活習慣病 (3) 個食、孤食、欠食 (4) サプリメント (5) 食の安全性 (6) 解決策：食育、スローフード、地産地消等	講義	①	5	4. ライフステージと栄養 1) 乳幼児期 2) 学童期 3) 青年期 4) 成人期 5) 妊娠・授乳期 6) 更年期 7) 老年期	講義	①	6	5. 療養生活と食事 1) 検査のための食事 大腸検査、甲状腺機能検査、潜血検査、乾燥食、ヨード制限 2) 病院食 (1) 一般食：常食、軟食、流動 (2) 特別食：エネルギーコントロール、たんぱく質コントロール 脂質コントロール、ナトリウムコントロール、易消化術後食、化学療法時食、放射線療法時食 3) 嚥下障害のある人の食事 4) 経腸栄養剤：天然濃厚流動食、半消化態栄養剤、成分栄養剤	講義	①	7	6. 食事指導 1) 栄養士による指導：対象、方法、留意点 2) 看護職との連携	講義	②	8	7. チーム医療と食事 1) 栄養サポートチーム(NST：nutrition support team) 2) 緩和ケアチーム、褥瘡ケアチームなど	講義	②
回	授業内容	授業方法	担当講師																																
1・2	1. 栄養と栄養素 1) 栄養とは 2) 栄養素とは 3) 栄養素の分類：五大栄養素、三大栄養素	講義	①																																
3	2. 栄養状態の評価 1) 身体計測 身長、体重、体格指数(BMI)、皮下脂肪、体脂肪率等 2) 食事調査 3) 臨床検査 4) 入院時の栄養管理調査	講義	②																																
4	3. 日常生活と栄養 1) 食文化の多様性：世界、日本、地域、個人 2) 現代の食生活の特徴と問題点、解決策 (1) 肥満、やせ、過剰栄養、低栄養 (2) 生活習慣病 (3) 個食、孤食、欠食 (4) サプリメント (5) 食の安全性 (6) 解決策：食育、スローフード、地産地消等	講義	①																																
5	4. ライフステージと栄養 1) 乳幼児期 2) 学童期 3) 青年期 4) 成人期 5) 妊娠・授乳期 6) 更年期 7) 老年期	講義	①																																
6	5. 療養生活と食事 1) 検査のための食事 大腸検査、甲状腺機能検査、潜血検査、乾燥食、ヨード制限 2) 病院食 (1) 一般食：常食、軟食、流動 (2) 特別食：エネルギーコントロール、たんぱく質コントロール 脂質コントロール、ナトリウムコントロール、易消化術後食、化学療法時食、放射線療法時食 3) 嚥下障害のある人の食事 4) 経腸栄養剤：天然濃厚流動食、半消化態栄養剤、成分栄養剤	講義	①																																
7	6. 食事指導 1) 栄養士による指導：対象、方法、留意点 2) 看護職との連携	講義	②																																
8	7. チーム医療と食事 1) 栄養サポートチーム(NST：nutrition support team) 2) 緩和ケアチーム、褥瘡ケアチームなど	講義	②																																
<p>授業の進め方</p> <p>主にパワーポイントを使用して講義を進める。</p> <p>栄養学は、解剖生理学・生化学の知識を活用し理解する。疾患別の治療食については、病態生理学と合わせて理解していくとともに、基礎看護学(食と栄養)をはじめ、各看護学の食事に関する内容に活用できるよう学ぶ。</p>																																			

テキスト

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学(医学書院) : ①②
2. 系統看護学講座別巻 栄養食事療法(医学書院) : ①②
3. 糖尿病食事療法のための食品交換表(第7版)(文光堂) : ①②

評価方法

筆記試験

領 域	専門基礎分野 (人体の構造と機能)	開講時期	1年前期
科 目 名	微生物学	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	松本 昂 (大分大学医学部環境・予防医学講座・助教・9年)		

<科目目標>

感染症の原因である微生物および微生物とその宿主（特に人間）との相互関係について理解する。また人間を取り巻く環境中の微生物について理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 微生物の成り立ち	講義
2	2. 微生物学概論	講義
3	3. 感染症の歩み	講義
4	4. 細菌の構造、感染経路	講義
5	5. 感染症の検査方法① (染色方法、直接鏡検法、培養法)	講義
6	6. 感染症の検査方法② (原虫学的検査法、遺伝学的検査法、抗体検査)	講義
7	7. 感染症の診断、観察	講義
8	8. 滅菌と消毒	講義
9	9. 感染症の予防、手指衛生	講義
10	10. 性感染症・母子感染	講義
11	11. 細菌学・ウイルス学	講義
12	12. 真菌症	講義
13	13. 寄生虫学	講義
14	14. 抗菌薬	講義
15	15. 公衆衛生・危機管理	講義

授業の進め方

主にパワーポイント、資料を用いて講義を行う。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 (医学書院)

評価方法

筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年前期																		
科 目 名	病理学	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)																		
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中園 裕一 (別府医療センター・病理診断科医長)																				
<p><科目目標> 人体の健康が破綻する病態の原因・発生機序・治療や検査を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 疾病の要因と生体の回復 1) 病気を引き起こす内的・外的要因 2) 疾病を引き起こす生活習慣 3) ストレス 4) 回復過程 5) 回復に影響する身体的/心理・社会的要因</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 細胞の障害 1) 萎縮 2) 変性 3) 肥大と過形成 4) 壊死とアポトーシス 5) 創傷とその治癒</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3～6</td> <td>3. 生体の障害 1) 循環障害 (1) 循環器系の概要 (2) 循環障害 (局所性・全身性・リンパ) 2) 臓器不全 3) 炎症、損傷 4) 免疫異常、アレルギー (1) アレルギーと自己免疫疾患 (2) 移植と免疫 5) 内分泌・代謝異常 6) 廃用症候群 7) 老年症候群 (1) 細胞の老化と固体の老化 (2) 加齢に伴う諸臓器の変化 (3) 個体の死 8) 遺伝子異常、先天異常 9) 腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類 (2) 腫瘍の発生病理 (発生機序、発生原因) (3) 悪性腫瘍の転移と進行度 10) 中毒 11) 放射性障害</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>4. 感染 1) 人と病原体の関わり 2) ウイルス 3) 細菌 4) 真菌 5) 薬剤耐性 (多剤耐性菌)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5. 病理診断</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 疾病の要因と生体の回復 1) 病気を引き起こす内的・外的要因 2) 疾病を引き起こす生活習慣 3) ストレス 4) 回復過程 5) 回復に影響する身体的/心理・社会的要因	講義	2	2. 細胞の障害 1) 萎縮 2) 変性 3) 肥大と過形成 4) 壊死とアポトーシス 5) 創傷とその治癒	講義	3～6	3. 生体の障害 1) 循環障害 (1) 循環器系の概要 (2) 循環障害 (局所性・全身性・リンパ) 2) 臓器不全 3) 炎症、損傷 4) 免疫異常、アレルギー (1) アレルギーと自己免疫疾患 (2) 移植と免疫 5) 内分泌・代謝異常 6) 廃用症候群 7) 老年症候群 (1) 細胞の老化と固体の老化 (2) 加齢に伴う諸臓器の変化 (3) 個体の死 8) 遺伝子異常、先天異常 9) 腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類 (2) 腫瘍の発生病理 (発生機序、発生原因) (3) 悪性腫瘍の転移と進行度 10) 中毒 11) 放射性障害	講義	7	4. 感染 1) 人と病原体の関わり 2) ウイルス 3) 細菌 4) 真菌 5) 薬剤耐性 (多剤耐性菌)	講義	8	5. 病理診断	講義
回	授業内容	授業方法																			
1	1. 疾病の要因と生体の回復 1) 病気を引き起こす内的・外的要因 2) 疾病を引き起こす生活習慣 3) ストレス 4) 回復過程 5) 回復に影響する身体的/心理・社会的要因	講義																			
2	2. 細胞の障害 1) 萎縮 2) 変性 3) 肥大と過形成 4) 壊死とアポトーシス 5) 創傷とその治癒	講義																			
3～6	3. 生体の障害 1) 循環障害 (1) 循環器系の概要 (2) 循環障害 (局所性・全身性・リンパ) 2) 臓器不全 3) 炎症、損傷 4) 免疫異常、アレルギー (1) アレルギーと自己免疫疾患 (2) 移植と免疫 5) 内分泌・代謝異常 6) 廃用症候群 7) 老年症候群 (1) 細胞の老化と固体の老化 (2) 加齢に伴う諸臓器の変化 (3) 個体の死 8) 遺伝子異常、先天異常 9) 腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類 (2) 腫瘍の発生病理 (発生機序、発生原因) (3) 悪性腫瘍の転移と進行度 10) 中毒 11) 放射性障害	講義																			
7	4. 感染 1) 人と病原体の関わり 2) ウイルス 3) 細菌 4) 真菌 5) 薬剤耐性 (多剤耐性菌)	講義																			
8	5. 病理診断	講義																			
<p>授業の進め方 本科目では、疾病の病因および成り立ちについて学習する。疾病論を学習する上での基礎となる学習内容であり、ここで学習した病態(疾病)の原因・発生機序・検査などの知識を疾病論および各看護学への学習につなげていく。</p>																					
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 (医学書院)</p>																					
<p>評価方法 筆記試験</p>																					

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年 前期～後期
科 目 名	疾病論 I	単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①上野 拓也 (別府医療センター・呼吸器科医長) ②福山 誠一 (別府医療センター・呼吸器外科医長) ③藤本 書生 (別府医療センター・循環器内科部長) ④竹林 聡 (別府医療センター・心臓血管外科医長) ⑤久米 正純 (別府医療センター・血管外科医長)		
<科目目標> 呼吸器および循環器の疾病について病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～6	I. 呼吸機能の障害 1) 主な疾患 (1) 気道・肺の炎症 ①結核 ②インフルエンザ ③肺炎 ④間質性肺疾患 (2) 気道の閉塞をきたす疾患 ①気管支喘息 ②慢性閉塞性肺疾患 (3) 肺循環障害 ①肺梗塞 ②肺塞栓症 (4) 肺腫瘍 (5)呼吸不全 (6)気胸 2) 主な症状 (1) 酸素化障害の症状 (2) 換気障害の症状 (3) 呼吸運動障害の症状 3) 主な検査 (1) 気管支鏡検査 (2) 胸腔穿刺・胸水検査 (3) 肺生検 (4) 呼吸機能検査 (5) 血液検査・動脈血液ガス分析 (6) 喀痰検査 (7) 画像検査 4) 主な治療、処置 (1) 酸素療法 (2) 吸入療法 (3) 呼吸理学療法 (4) 気道確保 (5) 胸腔ドレナージ (6) 人工呼吸療法 ①非侵襲的陽圧管理 ②侵襲的陽圧管理 (7) 薬物療法 ①抗アレルギー薬②気管支拡張薬 ③副腎皮質ステロイド	講義	①
7	4) 主な治療・処置 (8) 手術療法 (胸腔鏡含む) (9) 胸腔ドレナージ 5) 呼吸器手術に伴う合併症	講義	②
8～13	II. 循環器の障害 1. 心臓の疾患 1) 主な疾患 (1) 心臓の疾患の病態と診断・治療 ①先天性心疾患 i. 心房中隔欠損症 ii. 心室中隔欠損症 iii. 動脈管開存症 iv. ファロー四徴症 ②虚血性心疾患 i. 狭心症 ii. 急性冠症候群 (急性心筋梗塞) ③心筋症 i. 肥大型心筋症 ii. 拡張型心筋症 ④心不全 i. 急性心不全 ii. 慢性心不全	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
8～ 13	⑤心タンポナーデ ⑥不整脈 i. 上室性頻脈性不整脈 ii. 心室性頻脈性不整脈 iii. 徐脈性不整脈 ⑦炎症性疾患 i. 感染性心内膜炎 ii. 心筋炎 iii. 収縮性心膜炎 ⑧弁膜症 i. 大動脈弁疾患 ii. 僧帽弁疾患 (2) 血圧異常の病態と診断・治療 ①動脈硬化症 ②本態性高血圧 ③二次性高血圧 ④起立性低血圧 (3) ショックの病態と診断・治療 ①心原性ショック ②出血性ショック ③血流分布異常性ショック 2) 主な症状 (1) ポンプ機能障害の症状 (2) 輸送還流障害の症状 (3) 刺激伝導障害の症状 (4) 胸部X線、CT、MRI (5) 血行動態モニタリング (6) 動脈血ガス分析 3) 主な検査 (1) 心臓カテーテル検査 (2) 心血管造影検査 (3) 心電図・心エコー検査 4) 治療・処置 (1) 内科的治療 ①薬物療法（血栓溶解療法） ②心臓カテーテル治療（PCI、アブレーション、血栓除去術） ③ペースメーカー装置	講義	③
14	(2) 外科的治療 ①周手術期管理 ②主な術式、冠動脈バイパス術（CABG） 弁置換術 (3) 補助循環装置 ①大動脈内バルーンパンピング（IABP） ②経皮的心肺補助 ③補助人工心臓	講義	④
15	3. 血管の疾患 1) 主な疾患 (1) 大動脈瘤・大動脈解離 (2) 閉塞性動脈硬化症 (3) 挫滅症候群 (4) 下肢静脈瘤 (5) 深部静脈血栓症 2) 症状・検査・治療	講義	⑤
授業の進め方 解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器（医学書院）：①② 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器（医学書院）：③④ 3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）：⑤			
評価方法 筆記試験			

領域	専門基礎分野	開講時期	1年 後期
科目名	疾病論Ⅱ	単位数 (時間数)	1単位 (30時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	① 杉田 真一 (別府医療センター・消化器科医長) ② 鶴田 悟 (別府医療センター・消化器内科部長) ③ 松本 敏文 (別府医療センター・手術部長) ④ 藤尾 信昭 (別府医療センター・糖尿病代謝内科部長)		
<科目目標> 消化器および内分泌・代謝の疾病について病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～ 4	1. 消化器系 (消化管) 1) 主な疾患 (1) 上部消化管の疾患の病態と診断・治療 ① 炎症性疾患 i. 逆流性食道炎 ii. 急性胃炎 iii. 慢性胃炎 iv. ヘリコバクターピロリ感染症 ② 潰瘍性疾患 i. 胃潰瘍 ii. 十二指腸潰瘍 ③ 腫瘍 i. 食道癌 ii. 胃癌 (2) 下部消化管の疾患の病態と診断・治療 ① 炎症性疾患 i. 潰瘍性大腸炎 ii. Crohn<クローン>病 iii. 虫垂炎、痔瘻 ② 腸重積症 ③ 腫瘍 i. 大腸ポリープ ii. 結腸癌 iii. 直腸癌 ④ 排便障害 i. 便秘 ii. 下痢 (3) 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療 ① 鼠径ヘルニア ② 腹膜炎 ③ 横隔膜ヘルニア 2) 主な症状 (1) 消化管機能障害による症状 ① 食欲不振 ② 胸やけ ③ 悪心・嘔吐 ④ 下痢 ⑤ 便秘 ⑥ 吐血・下血・血便 ⑦ 腹痛、腹部膨満 3) 主な検査 (1) 上部消化管内視鏡検査 (2) 大腸内視鏡検査 (3) 上部消化管造影 (4) 下部消化管造影 (5) 直腸診 (6) 画像 4) 主な治療・処置 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 経腸栄養、PEG (4) 中心静脈栄養法	講義	①
5～ 7	2. 消化器系 (肝・胆・膵) 1) 主な疾患 (1) 炎症性疾患 ① 肝炎 ② 胆管炎 ③ 膵炎 (2) 肝硬変 (3) 腫瘍 ① 肝癌 ② 胆嚢癌 ③ 胆管癌 ④ 膵癌 (4) 脂肪肝、アルコール性肝炎 (5) 胆石症	講義	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
5～7	2) 主な症状 (1) 肝機能障害による症状 ①肝性脳症 ②門脈圧亢進、食道静脈瘤 ③浮腫・腹水 ④倦怠感 ⑤黄疸 ⑥出血傾向 ⑦肝・脾腫大 ⑧皮膚症状 (2) 膵液分泌障害による症状 (3) 胆汁分泌障害による症状 3) 主な検査 (1) 造影CT・MRI (2) 肝生検 (3) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) 4) 主な治療・処置 (1) 肝庇護療法 (2) インターフェロン療法 (3) 食道静脈瘤硬化療法 (4) 胆道・胆嚢ドレーン挿入 (5) 肝動脈塞栓術 (6) 急性膵炎の治療	講義	②
8・9	3. 手術療法 1) 消化管の術式、術前・術後管理 (1) 食道切除術 (2) 胃切除術 (3) 大腸切除術 (4) 腹腔鏡視下手術 (5) 人工肛門造設術 2) 肝、胆、膵系の術式、術前・術後管理	講義	③
10～15	4. 内分泌・代謝系 1) 主な疾患 (1) メタボリックシンドローム (2) 肥満症 (3) 糖尿病 (4) 脂質異常症 (高脂血症) (5) 高尿酸血症と痛風 (6) 間脳・下垂体疾患 (7) 甲状腺疾患 ①甲状腺機能亢進症 ②甲状腺機能低下症 ③甲状腺炎 ④甲状腺がん (8) 副甲状腺疾患 (9) 副腎皮質・髄質疾患 2) 主な症状 (1) 血糖調節機能障害による症状 (2) 甲状腺機能障害による症状 (3) 副腎機能障害による症状 (4) 下垂体機能障害による症状 3) 主な検査 (1) 糖負荷試験 (OGTT) (2) ホルモン負荷検査 (3) ホルモン血中・尿中濃度測定検査 4) 主な治療 (1) インスリン補充療法 (2) インクレチン関連薬による治療 (3) 食事療法・運動療法 (4) 甲状腺ホルモン療法 (5) 手術療法 ①甲状腺切除術	講義	④
授業の進め方 解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。			
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器 (医学書院) : ①②③ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 (医学書院) : ④			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名	疾病論Ⅲ	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①後藤 勝政 (西別府病院・神経内科部長) ②中村 憲一郎 (西別府病院・神経内科医師) ③片山 徹 (西別府病院・神経内科医師) ④松田 剛 (別府医療センター・脳神経外科医長・救急センター長) ⑤杉 修造 (別府医療センター・整形外科医師)		
<科目目標> 脳神経および運動器の疾病について病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～5	1. 脳神経系 1) 主な疾患 (1) 脳血管障害 ①脳内出血 ②くも膜下出血 ③脳梗塞 ④もやもや病 (2) 頭蓋内圧亢進症 (3) 変性疾患 ①パーキンソン病 ②筋萎縮性側索硬化症 (ALS) (4) 脱髄疾患 ①多発性硬化症 (5) 認知症 ①アルツハイマー病 ②血管性認知症 ③レビー小体型認知症 (6) 感染症 ①脳炎 ②髄膜炎 (7) 頭部外傷 (8) 脊髄損傷 (9) 機能性疾患 (てんかん) (10) 脳腫瘍 (11) ギランバレー症候群 (12) 圧迫性神経障害 (13) 顔面神経麻痺 (ベル麻痺) (14) 筋ジストロフィー (15) 重症筋無力症 2) 主な症状 (1) 意識障害 (2) 高次脳機能障害 (3) 運動機能障害 (4) 感覚機能障害 (5) 言語機能障害 (6) 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア (7) 反射性運動の障害 (8) 髄膜刺激症状 3) 主な検査 (1) 神経学的検査 (2) 脳波 (3) CT、MRI (4) 髄液検査 (5) 脳血管造影 4) 主な治療 (1) 血管内治療 ①血栓内治療 ②動脈瘤塞栓術 (2) 低体温療法 (3) リハビリテーション	講義	① ② ③
6・7	5) 外科的治療 (1) 手術適応の疾患、状態 ①頭部と脊椎の外傷 ②脳出血 ③脳腫瘍 (2) 術式 ①開頭術 ②穿頭術 ③血管バイパス術 ④脳室ドレナージ術 ⑤脳室-腹腔シャント術 (3) 術前後の管理、主な合併症	講義	④

回	授業内容	授業方法	担当講師
8～ 15	<p>2. 運動器系</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1)骨折(分類、転移、治癒過程) (2)脱臼、捻挫</p> <p>(3)骨粗しょう症</p> <p>(4)関節 ①変形性関節症 ②関節リウマチ</p> <p>(5)腫瘍(骨肉腫)</p> <p>(6)腰痛症 ①腰椎椎間板ヘルニア ②腰部脊柱管狭窄症 ③二分脊椎</p> <p>(7)炎症性疾患 ①骨・骨髄炎 ②関節炎</p> <p>2) 主な症状</p> <p>(1)疼痛(関節痛、筋肉痛、腰痛、坐骨神経痛)</p> <p>(2)形態の異常(奇形と変形、機能的要因別に見た変形、部位別に見た変形)</p> <p>(3)関節運動の異常(関節拘縮、強直、動揺関節)</p> <p>(4)神経障害(運動麻痺、知覚障害)</p> <p>(5)筋肉の障害</p> <p>(6)異常歩行、跛行</p> <p>3) 主な検査</p> <p>(1)画像検査(関節・脊椎造影検査、シンチグラフィ)</p> <p>(2)骨密度の測定 (3)関節鏡検査 (4)筋生検</p> <p>4) 主な治療</p> <p>(1)保存療法:ギブス、牽引 (2)理学療法、作業療法</p> <p>(3)義肢と装具 (4)注射:関節内注射、神経ブロック等</p> <p>(5)手術療法</p> <p>①手術の対象、適応 ②骨の手術 ③関節の手術</p> <p>④脊椎、脊髄の手術 ⑤手術の合併症</p>	講義	⑤
<p>授業の進め方</p> <p>解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経(医学書院):①②③④</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器(医学書院):⑤</p> <p>3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院):④</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領域	専門基礎分野	開講時期	1年後期
科目名	疾病論Ⅳ	単位数 (時間数)	1単位 (30時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	①菊池 秀年 (別府医療センター・腎臓内科医長) ②井上 享 (別府医療センター・泌尿器科医長) ③田中 仁寛 (別府医療センター・外科医長) ④矢野 篤次郎 (別府医療センター・院長) ⑤緒方 優子 (別府医療センター・血液内科医長)		
<科目目標> 腎・泌尿器、血液・造血器、乳腺の疾病および感染症の病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～3	1. 腎系 1) 主な疾患 (1) 腎炎、慢性腎臓病 (2) 炎症性疾患 ①腎盂腎炎 ②膀胱炎 (3) 腫瘍 ①腎癌 ②尿管癌 ③膀胱癌 (4) 腎・尿路結石 (5) 排尿障害 ①過活動膀胱 ②腹圧性尿失禁 ③夜尿症 2) 主な症状 (1) 尿異常 (2) 水・電解質異常 (3) 循環器系の異常 (4) 血液の異常 (5) 尿毒症 3) 主な検査 (1) 尿検査 (2) 腎機能検査 (3) X線検査(膀胱・尿道・血管・逆行性腎盂造影) 4) 主な治療・処置 (1) 内科的治療 ①食事療法 ②薬物療法 ③透析療法 (血液透析、腹膜透析)	講義	①
4・5	2. 泌尿器系 1) 主な疾患 (1) 前立腺肥大 (2) 結石 (3) 腫瘍 2) 主な症状 (1) 排尿障害 (2) 疼痛 (3) 腫脹・腫瘤 3) 主な検査 (1) 膀胱鏡検査 (2) 生検 (腎・膀胱) 4) 主な治療・処置 (1) 外科的治療 ①手術療法 (腎移植・膀胱切除術、前立腺切除術) ②放射線療法 ③ホルモン療法	講義	②
6	3. 男性生殖器 1) 主な疾患 (1) 男性生殖器の疾患 ①前立腺炎 ②前立腺肥大 ③前立腺癌 (2) 生殖機能障害 2) 主な症状 (1) 勃起障害症状 (2) 性交障害症状 3) 主な検査 (1) 男性生殖器の触診 4) 主な治療・処置 (1) 勃起障害治療 (2) 性交障害治療 (3) 男性生殖器切除術	講義	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
7	4. 乳腺 1) 主な疾患：乳がん 2) 主な症状 (1) 腫瘤 3) 主な検査など (1) 触診 (2) マンモグラフィ (3) 超音波検査 (4) MRI (5) 細胞診 (6) 生検 (7) 病期確定診断 (X線検査、CT、骨シンチグラフィ 等) 4) 主な治療・処置 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 (4) ホルモン療法	講義	③
8～ 10	5. 感染症 1) 主な感染症 (1) 呼吸器感染症：上気道感染 (2) 感染性食中毒 (3) 性感染症 (4) 尿路感染症 (5) 全身性ウイルス性疾患 (6) 針刺しによる感染症 2) 主な症状 (1) 発熱 (2) 発疹 (3) 下痢 (4) 意識障害 (5) 咳 3) 主な検査 (1) 病原体検出法 (2) 血清学診断法 4) 主な治療、予防 (1) 化学療法：抗細菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬など (2) 予防接種	講義	④
11～ 15	6. 血液・造血器 1) 主な疾患 (1) 赤血球系 (鉄欠乏性貧血など) (2) 白血球系 (白血病、白血球の異常) (3) リンパ網内系疾患 (悪性リンパ腫、HIV、AIDSなど) (4) 異常タンパク血症 (多発性骨髄腫) (5) 出血性疾患 2) 主な症状 (1) 貧血 (2) 白血球増加症・減少症 (3) 脾腫 (4) リンパ節腫脹 (5) 出血性素因 (血管障害、血小板異常、凝固障害) 3) 主な検査 (1) 末梢血検査 (2) 骨髄穿刺・生検 (3) リンパ節生検 4) 主な治療・処置 (1) 輸血療法 (2) 化学療法 (3) 造血幹細胞移植 (4) 血液疾患に対する遺伝子治療 (5) 血液疾患に合併する感染症とその対策	講義	⑤

授業の進め方

解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。

テキスト

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院)：①②

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)：②③

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)：④

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 (医学書院)：⑤

評価方法

筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年後期
科 目 名	薬理学 I	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	神川 滯香 (別府医療センター・薬剤師) 薬師寺 並 (別府医療センター・薬剤師)		
<科目目標> 薬物の特性及び作用・副作用についての基礎的な知識を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	
1・2	1. 薬理作用と作用機序 1) 薬理作用 2) 薬物の作用機序 3) 受容体 2. 薬効 1) 主作用 2) 副作用(有害作用) 3) 薬物依存 4) 薬物相互作用	講義	
3	3. 投与経路と血中濃度の推移 1) 投与経路 2) 作用時間 4. 薬物動態(薬物の移動) 1) 吸収 2) 分布 3) 代謝 4) 排泄 5) 生物学的半減期	講義	
4	5. 剤形と体内動態 1) 剤形の種類 2) 適用部位と剤形 3) 剤形ごとの特徴 散剤、顆粒剤、シロップ、錠剤、舌下剤、カプセル剤、 液剤、吸入剤、点眼剤、軟膏、注射剤 6. 薬物に影響を与える因子 個体差、性差、遺伝、薬物連用、食事、疾患、年齢など	講義	
5～7	7. 抗感染症薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、皮膚科薬、眼科薬 8. 抗がん薬、免疫治療薬 9. 末梢での神経活動に作用する薬物、中枢神経に作用する薬物 10. 心臓・血管・呼吸系に作用する薬物、救急の際に使用される薬物 11. 消化器・生殖器系に作用する薬物 12. 物質代謝に作用する薬物	講義	
8	13. 漢方薬 14. 消毒薬 15. 輸血剤	講義	
授業の進め方 テキストを中心に講義する。 体内への吸収、代謝から薬効の発現までを理解できるように教授する。また、この知識を活用し薬剤の種類や適用部位が理解できるよう進めていく。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 (医学書院)			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年後期
科 目 名	薬理学Ⅱ	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	神川 滯香 (別府医療センター・薬剤師) 薬師寺 並 (別府医療センター・薬剤師)		
<科目目標> 薬理学Ⅰの内容を基礎知識として、薬物療法を受ける患者の看護に関して臨床で活用できるような知識を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 薬事法規 1) 薬剤師法 2) 薬事法 3) 毒物及び劇物取締法 4) 麻薬及び向精神薬取締法	講義	
2	2. 医薬品添付文書の読み方 1) 医薬品添付文書: 薬事法によって医薬品に必ず添付するよう規定されている公文書 2) 注目する内容 (1) 「警告」、「禁忌」 (2) 副作用 (3) 使用上の注意点	講義	
3	3. 処方箋 1) 処方箋とは 2) 処方箋の記載内容 3) 処方箋の形式: 注射、内服、麻薬など 4) 処方箋の見方、読み方	講義	
4	4. 医薬品の安全な管理と使用 1) 麻薬 2) 薬、毒薬 3) 有効期間 4) 保存温度 5) 配合変化、禁忌 6) 間違いやすい薬	講義	
5	5. 処方から投与まで 1) 処方(処方箋) 2) 調剤 3) 説明 4) 準備 (1) 6Rを守る (2) 単位、滴下量 (3) 計算: 希釈、濃度: 投与量、粉末(固体)の注射薬品の一部使用(バイアルやアンプル)、輸液セット 5) 投与 6) 投与中、後の状態観察、把握	講義	
6	6. ライフサイクルと薬 1) 妊娠期 2) 胎児期 3) 小児期 4) 高齢者	講義	
7	7. 薬物と臨床検査 1) 薬物血中濃度モニタリング(TDM) 2) 検査値に対する薬物の影響 8. 新薬開発・治験、ジェネリック医薬品	講義	
8	9. 薬剤師による服薬指導 1) 服薬指導の対象者 オーダー: 指導箋、クリティカルパス 2) 服薬指導の内容、方法、留意点 10. チーム医療、他職種との連携 1) 治験看護師 2) 専門薬剤師 3) 病棟薬剤業務	講義	
授業の進め方 実際の処方箋や医薬品添付文書などを提示し、処方から製剤～医薬品投与～投与後の観察までの一連の流れを講義する。また、治療薬の本の活用方法についても合わせて教授する。 単位、滴下量、計算: 希釈、濃度では実際に事例を用い計算を行い学習する。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 (医学書院)			
評価方法 筆記試験			

領域	専門基礎分野	開講時期	1年後期
科目名	治療論	単位数 (時間数)	1単位(30時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	①久米 正純 (別府医療センター・血管外科医長) ②甲斐 成一郎 (別府医療センター・外科医師) ③大石 一成 (別府医療センター・麻酔科部長) ④松浦 秀司 (別府医療センター・放射線部長) ⑤山口 俊博 (別府医療センター・放射線部長) ⑥矢野 篤次郎 (別府医療センター・院長) ⑦佐藤 陽昨 (別府医療センター・リハビリテーション科医長) ⑧西崎 武文 (別府医療センター・理学療法士) ⑨山重 佳 (別府医療センター・主任作業療法士)		
<科目目標> 臨床で行われる主な治療である手術療法、麻酔法、放射線療法、がん化学療法、リハビリテーションの特徴と人体への影響について理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～5	1. 手術療法 1) 手術療法の目的と意義 (1) 手術療法が必要な患者 2) 手術療法と生体反応 (1) 手術侵襲の意味 (2) 手術に対する生体反応 (3) サイトカインによる生体調節 3) 切開、剥離、結紮、切離、切除、吻合、修復、縫合、造設、置換、移植などの様々な手技 4) 術前管理 (1) 術前の患者評価 (2) 術前処置 5) 術後管理：全身管理、観察、術後疼痛管理、体液・輸液管理、創傷治癒、輸血療法 6) 術後合併症とその予防 7) 外科的感染対策：外科的感染症と対策 (1) 手術部位感染 (SSI)： 手術に伴う創部感染や手術後の腹腔内膿瘍の形成	講義	① ②
6・7	2. 麻酔法 1) 麻酔とは 2) 麻酔の種類：全身麻酔と局所麻酔 3) 術前管理：術前回診、前投薬 4) 術中管理：呼吸、循環、筋弛緩 5) 全身麻酔 (1) 気道確保法 (2) 麻酔導入法 (3) 吸入麻酔法 (4) 静脈麻酔 (5) 全身麻酔中、麻酔後の合併症 6) 局所麻酔 (1) 脊髄クモ膜下麻酔 (2) 硬膜外麻酔 (3) 局所浸潤麻酔：表面麻酔、伝達麻酔(4) 局所麻酔中の合併症	講義	③
8～10	3. 放射線診断、放射線治療 <診断> *それぞれの検査の前処置、後の処置含む 1) X線診断 (1) X線検査の種類：間接撮影、直接撮影、CT、造影CT	講義	④ ⑤

回	授業内容	授業方法	担当講師
8～ 10	2)血管造影 (1)検査の方法、準備、終了後の処置 (2)胸部、腹部、頭部、心臓カテーテル検査 3)MRI (1)特徴 (2)禁忌：ペースメーカーなど (3)MRI室への持込禁忌物品：金属、磁気記録媒体、電子機器 4)超音波診断 (1)適応、特徴 5)核医学診断 (1)種類、特徴 <治療> 1)人体に対する放射線の影響 (1)放射線量の単位 (2)細胞に与える影響 (3)正常組織に与える影響(4)臓器の反応 (5)放射線による 全身症状(放射線宿酔) 2)悪性腫瘍と放射線療法 3)併用療法：手術、化学療法など 4)放射線治療の方法 <放射線防護と健康管理> 1)放射線障害 2)放射線防護の基本と健康管理	講義	④ ⑤
11・12	4. 化学療法：悪性腫瘍の化学療法 1)化学療法効果とがんの種類、化学療法の適応 (1)完治する可能性 (2)病気の進行を遅らせる (3)ある程度効果があり症状がよくなる (4)効果が期待できない 2)がんの集学的治療における化学療法 (1)多剤併用療法 3)がん化学療法とEBM 4)がん化学療法による治療効果の評価：検査データなど 5)主な疾患の化学療法 6)がん化学療法の身体的影響、副作用(有害事象) 7)がん化学療法前、中、後の留意点 8)がん化学療法薬の投与管理 (1)安全な取り扱い：防護、飛散の対応、廃棄など (2)血管外漏出時 (3)感染管理 (4)事故防止 9)がん化学療法の最新の動向	講義	⑥
13	5. リハビリテーション療法 1)リハビリテーションの定義と理念 (1)WHO 障害の概念 2)リハビリテーションの分野 (1)医学的 (2)教育的 (3)職業的 (4)社会的 3)リハビリテーション療法の目的 4)リハビリテーション療法の種類と特徴 (1)運動療法 (2)物理療法 (3)作業療法 (4)言語療法 5)チームメンバー (Dr、Ns、PT、OT、義肢装具士、ST、視能訓練士、MSW、臨床 心理士など)	講義	⑦
14	6)運動器系のリハビリテーション：骨折、関節リウマチなど 7)呼吸・循環器系リハビリテーション： 慢性閉塞性肺疾患、心臓リハビリテーション	講義	⑧

回	授業内容	授業方法	担当講師
15	8) 中枢神経系のリハビリテーション 脳血管疾患、脊損などの言語・嚥下リハビリテーション 9) 視聴覚系のリハビリテーション：視覚障害、聴覚障害	講義	⑨
<p>授業の進め方 パワーポイントでの講義を中心に行う。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)：①②③ 2. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)：⑦⑧⑨ 3. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院)：④⑤ 4. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 (医学書院)：⑥ 5. 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論-基礎看護学<4> (医学書院)：⑥ 			
<p>評価方法 筆記試験</p>			

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年前期																		
科 目 名	保健医療論	単 位 数 (時間数)	1単位 (15時間)																		
講 師 (所属・職位等・実務経験)	矢野 篤次郎 (別府医療センター・院長)																				
<p><科目目標> 医学・医療とは何か、また、現代医療の動向や看護の役割を理解する。さらに、国立病院機構の機能や特徴を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 医学・医療の歴史 1) 歴史的背景 2) 近代医学の発展 3) 今後の医学・医療の動向</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 医学と医療 1) 現代医療の本質 2) 医療の実践 (1) 疾病の診断と治療 (2) 医師の義務 (3) 看護師の役割 (4) 現代医療におけるチーム医療 (5) わが国の医療供給体制</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3～5</td> <td>3. 現代医療における諸問題 1) 医療における生命、死の概念 (1) 生命 (誕生) と死の考え方の変遷 (2) 脳死と臓器移植 (3) 死と生命維持、安楽死、尊厳死 2) 生命と倫理をめぐる課題 (1) 医療における倫理の変遷 (2) バイオエシックス (3) 先端医療と倫理的問題 (4) 臨床医学研究と倫理 3) 医療における患者の権利 (1) 患者の権利尊重の背景 (2) 患者の自己決定権と医療者の役割 (3) 病状告知 4) 新しい医療と生命科学 (1) 遺伝子・ゲノム医療 (2) 再生医学・再生医療</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6・7</td> <td>4. 保健・医療・福祉をとりまく社会の変化と今後の医療 1) 疾病構造の大幅な変化 (生活習慣病や多疾患などの慢性化・複雑化) 2) 保健医療に係るリソースに対するニーズの増加・多様化 3) 保健医療サービスと患者の価値とのミスマッチ (1) 医療従事者の専門細分化 (2) プライマリケアや慢性期の医療の質 (3) 過剰診断、過剰治療、過剰投薬、頻回・重複受診 等 4) 複雑化・高度化する技術革新 5) 医療従事者への過度な負担 6) 医療の透明性や説明責任の不足</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の役割と機能 2) 政策医療 (1) 19の分野 (2) 政策医療ネットワーク 3) 看護の特徴</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 医学・医療の歴史 1) 歴史的背景 2) 近代医学の発展 3) 今後の医学・医療の動向	講義	2	2. 医学と医療 1) 現代医療の本質 2) 医療の実践 (1) 疾病の診断と治療 (2) 医師の義務 (3) 看護師の役割 (4) 現代医療におけるチーム医療 (5) わが国の医療供給体制	講義	3～5	3. 現代医療における諸問題 1) 医療における生命、死の概念 (1) 生命 (誕生) と死の考え方の変遷 (2) 脳死と臓器移植 (3) 死と生命維持、安楽死、尊厳死 2) 生命と倫理をめぐる課題 (1) 医療における倫理の変遷 (2) バイオエシックス (3) 先端医療と倫理的問題 (4) 臨床医学研究と倫理 3) 医療における患者の権利 (1) 患者の権利尊重の背景 (2) 患者の自己決定権と医療者の役割 (3) 病状告知 4) 新しい医療と生命科学 (1) 遺伝子・ゲノム医療 (2) 再生医学・再生医療	講義	6・7	4. 保健・医療・福祉をとりまく社会の変化と今後の医療 1) 疾病構造の大幅な変化 (生活習慣病や多疾患などの慢性化・複雑化) 2) 保健医療に係るリソースに対するニーズの増加・多様化 3) 保健医療サービスと患者の価値とのミスマッチ (1) 医療従事者の専門細分化 (2) プライマリケアや慢性期の医療の質 (3) 過剰診断、過剰治療、過剰投薬、頻回・重複受診 等 4) 複雑化・高度化する技術革新 5) 医療従事者への過度な負担 6) 医療の透明性や説明責任の不足	講義	8	5. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の役割と機能 2) 政策医療 (1) 19の分野 (2) 政策医療ネットワーク 3) 看護の特徴	講義
回	授業内容	授業方法																			
1	1. 医学・医療の歴史 1) 歴史的背景 2) 近代医学の発展 3) 今後の医学・医療の動向	講義																			
2	2. 医学と医療 1) 現代医療の本質 2) 医療の実践 (1) 疾病の診断と治療 (2) 医師の義務 (3) 看護師の役割 (4) 現代医療におけるチーム医療 (5) わが国の医療供給体制	講義																			
3～5	3. 現代医療における諸問題 1) 医療における生命、死の概念 (1) 生命 (誕生) と死の考え方の変遷 (2) 脳死と臓器移植 (3) 死と生命維持、安楽死、尊厳死 2) 生命と倫理をめぐる課題 (1) 医療における倫理の変遷 (2) バイオエシックス (3) 先端医療と倫理的問題 (4) 臨床医学研究と倫理 3) 医療における患者の権利 (1) 患者の権利尊重の背景 (2) 患者の自己決定権と医療者の役割 (3) 病状告知 4) 新しい医療と生命科学 (1) 遺伝子・ゲノム医療 (2) 再生医学・再生医療	講義																			
6・7	4. 保健・医療・福祉をとりまく社会の変化と今後の医療 1) 疾病構造の大幅な変化 (生活習慣病や多疾患などの慢性化・複雑化) 2) 保健医療に係るリソースに対するニーズの増加・多様化 3) 保健医療サービスと患者の価値とのミスマッチ (1) 医療従事者の専門細分化 (2) プライマリケアや慢性期の医療の質 (3) 過剰診断、過剰治療、過剰投薬、頻回・重複受診 等 4) 複雑化・高度化する技術革新 5) 医療従事者への過度な負担 6) 医療の透明性や説明責任の不足	講義																			
8	5. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の役割と機能 2) 政策医療 (1) 19の分野 (2) 政策医療ネットワーク 3) 看護の特徴	講義																			
<p>授業の進め方 講義では、視覚教材を用いて行う。</p>																					
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日野原重明 医学概論 (医学書院) 2. 新体系看護学全書6 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度①現代医療論 (メヂカルフレンド社) 																					
<p>評価方法 筆記試験</p>																					

領域	専門基礎分野	開講時期	2年前期
科目名	疾病論V	単位数 (時間数)	1単位 (30時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	①大塚 裕一郎 (別府医療センター・産婦人科医師) ②末永 康夫 (別府医療センター・副院長) ③清崎 邦洋 (別府医療センター・眼科医長) ④安倍 伸幸 (別府医療センター・耳鼻咽喉科医長) ⑤川村 和弘 (別府医療センター・歯科口腔外科医長) ⑥甲斐 宜貴 (別府医療センター・皮膚科医長)		
<科目目標> 女性生殖器、アレルギー、膠原病、感覚器、口腔・歯の疾病について病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～4	1. 女性生殖器 1) 主な疾患 (1) 子宮筋腫 (2) 子宮内膜症 (3) 卵巣嚢腫 (4) 腫瘍 (子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、) (5) 生殖機能障害 (月経異常、更年期障害) (6) 性感染症 2) 主な症状 (1) 月経異常 (2) 帯下 (3) 性器出血 (4) 骨盤内疼痛 (5) 排尿障害 (6) 腹部膨満 (7) 外陰部搔痒感 3) 主な検査 (1) 内診、膣鏡診 (2) 病理検査 (塗末細胞診、組織学的検査) (3) 画像検査 (超音波検査、CT、MRI) (4) 腫瘍マーカー検査 (5) 内視鏡検査 4) 主な治療・処置 (1) 内科的治療 ①膣洗浄 ②ダグラス窩穿刺 ③レーザー治療 ④薬物療法 (ホルモン療法、悪性腫瘍の化学療法、感染症に対する薬物療法) ⑤ワクチン接種による予防 (2) 外科的治療 ①手術療法	講義	①
5	2. アレルギー 1) 主な疾患と症状 (1) 花粉症 (アレルギー性鼻炎) (2) 蕁麻疹 (3) 接触皮膚炎 (4) アナフィラキシーショック 2) 主な検査 (1) IgE (2) アレルゲンテスト 3) 主な治療・処置 (1) 薬物療法 (免疫抑制剤、ステロイド療法) (2) 減感作療法	講義	②
6・7	3. 自己免疫疾患 1) 主な疾患 (1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス (3) シェーグレン症候群 (4) ベーチェット病 2) 主な症状 (1) 関節痛・関節炎 (2) 皮疹 (3) 筋力低下 (4) 血管炎 (5) レイノー現象 3) 主な検査 (1) 免疫学的検査 4) 主な治療・処置 (1) 薬物療法 (ステロイド薬、免疫抑制剤、抗リウマチ薬)	講義	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
8・9	4-1. 感覚器 (眼) 1) 主な疾患 (1) 白内障 (2) 緑内障 (3) 網膜剥離 (4) 網膜症 2) 主な症状 (1) 視機能に関連した症状 (2) 視機能に関連しない症状 3) 主な検査 (1) 眼底検査 (2) 視力、視野、眼球運動の検査 4) 主な治療 (1) 点眼 (2) 眼底光凝固療法 (3) 手術 (白内障、緑内障、角膜移植、網膜剥離治療)	講義	③
10～12	4-2. 感覚器 (耳鼻咽喉) 1) 主な疾患 (1) 聴力障害の疾患 (2) 副鼻腔炎 (3) 咽頭がん (4) 喉頭がん 2) 主な症状 (1) 耳(聴力の障害、メニエール病) (2) 鼻(鼻出血、嗅覚障害) (3) 咽頭(咽頭痛、呼吸障害、嚥下障害) (4) 喉頭(音声) 3) 主な検査 (1) 聴力検査(オーディオメーター検査) (2) 平衡感覚検査 (3) 鼻腔内視鏡検査 4) 主な治療 (1) 耳の処置 (2) 鼻の処置 (3) 咽喉頭の処置 (4) 手術(鼓室形成術、副鼻腔手術、喉頭の手術)	講義	④
13	4-3. 感覚器 (歯・口腔) 1) 主な疾患 (1) 齲蝕および歯髄疾患 (2) 歯周組織疾患 (3) 腫瘍 (舌癌) 2) 主な症状 (1) 口腔症状 (疼痛、腫脹、口腔出血、歯の欠損、口臭 等) (2) 顎口腔機能障害 (開口障害、咀嚼・嚥下障害、味覚障害 等) 3) 主な治療・処置 (1) 齲蝕治療 (2) 歯周疾患治療 (3) 口腔外科外来治療 (4) 口腔外科入院治療 (悪性腫瘍切除)	講義	⑤
14・15	4-4 感覚器 (皮膚) 1) 主な疾患 (1) 湿疹・皮膚炎群 (湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎等) (2) 蕁麻疹 (3) 薬疹 (4) 熱傷 (5) 褥瘡 (6) 皮膚感染症 (真菌感染症・ヘルペス 等) (7) 腫瘍 2) 主な症状 (1) 発疹 (2) びらん (3) 痒痒 3) 主な検査 (1) 皮膚科的検査法 (免疫・アレルギー検査、光線過敏性検査 等) (2) 病原微生物検査法 (細菌検査、真菌検査、ウイルス検査 等) (3) 病理組織検査法 4) 主な治療・処置 (1) 内服療法 (2) 外用療法 (3) 手術療法 (4) 光線療法 (5) レーザー療法	講義	⑥

授業の進め方

解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院) : ①
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) : ②
3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚 (医学書院) : ⑥
4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼 (医学書院) : ③
5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 (医学書院) : ④
6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔 (医学書院) : ⑤

評価方法

筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	社会福祉	単 位 数 (時間数)	2単位(45時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	井上 祥明 (別府医療センター・医療社会事業専門職)		
<p><科目目標></p> <p>すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在であり、平等であることを理解する。現代の社会構造を理解し、看護専門職として支援のあり方を考える。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1・2	1.生活者の健康と福祉 1)生活の基盤と社会福祉 2)ライフスタイルと社会福祉 2.現代の社会福祉の考え方 1)コミュニティケア 2)ノーマライゼーション 3)支えあう社会 4)措置制度と利用契約制度 5)利用者保護の制度	講義 演習(グループワーク)	
3・4	3.社会保障の目的と機能 4.社会保障 1)医療保険制度 (1)わが国の医療保険の特徴 ①国民医療保険の 動向 ②公費医療制度 ③診療報酬制度 (2)医療給付 (3)高齢者医療制度 (4)被用者保険	講義 演習(グループワーク)	
5・6	2)介護保険制度 3)年金保険制度 4)その他の社会保険制度 (1)雇用保険 (2)労働保険 (3)社会福祉サービス (4)公的扶助の意義、種類と内容(生活・ 教育・住宅・医療・介護・出産・生業・葬祭)	講義 演習(グループワーク)	
7～10	5.社会福祉に関する法律の理解と施策 1)児童に関する法や施策 (1)児童福祉法 (2)児童虐待防止法<児童虐待の防止等に関する法律> (3)母子及び父子並びに寡婦福祉法 2)高齢者に関するほうや施策 (1)老人福祉法 (2)高齢者虐待防止法<高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する 支援等に関する法律> (3)老人福祉計画	講義 演習(グループワーク)	
11～13	3)障害者(児)に関する法や施策 (1)障害者基本法 (2)障害者総合支援法<障害者の日常生活 及び社会生活を総合的に支援するための法律> (3)身体障害者福祉法 (4)知的障害者福祉法 (5)発達障害者支援法 (6)障害者雇用促進法<障害者の雇用の促進等に関する法律> (7)障害者差別解消法<障害を理由とする差別の解消の推進に関する 法律> (8)障害者虐待防止法 (9)障害者基本計画	講義 演習(グループワーク)	
14・15	4)低所得・貧困問題と社会福祉 (1)生活保護法 5)権利擁護と社会福祉 6)社会福祉士及び介護福祉法	講義 演習(グループワーク)	

回	授業内容	授業方法
16～19	6. 社会福祉行政のしくみ 1) 福祉の専門職と職種（介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士） 2) 保健福祉計画 3) 社会福祉の民間活動（民生委員、児童委員、社会福祉協議会、ボランティア、NPO） 4) 福祉の行政機関と施設：福祉事務所、児童相談所、社会福祉施設、在宅サービス機関	講義 演習（グループワーク）
20～23	7. 社会福祉、社会保障の現状と課題	講義 演習（グループワーク）
授業の進め方 各回の教育内容に基づき、グループディスカッションを行います。ディスカッションした内容を班ごとに発表してもらいます。発表後に最近の動向や事例を含めて講義します。（事前学習としてテキストを精読しておくこと）		
テキスト 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障[3] 社会福祉（医学書院） 2. 国民衛生の動向 2020/2021 年版（厚生統計協会） 3. 看護六法（新日本法規）		
評価方法 授業終了後のレポート提出（授業最後に実施）50点、筆記試験50点、合計100点で評価する。		

領域	専門基礎分野	開講時期	2年前期
科目名 (単元名)	関係法規 (看護関係法規)	単位数 (時間数)	1単位(30時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	①渡邊 真弓 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・31年) ②坂本 昌則 (別府医療センター・経営企画室長)		
<科目目標> 人々の健康を守り、看護職として職務を正しく遂行するために必要な保健・医療・福祉に関する制度や法律を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	I. 看護関係法規 1. 法の概念 保健師助産師看護師法 (成り立ち、構成)	講義	①
2	2. 保健師助産師看護師法 (目的、定義、免許、籍の登録)	講義	①
3	3. 保健師助産師看護師法 (業務、研修、義務、教育、罰則)	講義	①
4	4. 保健師助産師看護師法改正の経緯 5. 保健師助産師看護師法に関連する法令	講義	①
5	6. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 7. 看護職の法的責任	講義	①
6	II. 保健衛生法規 1. 公衆衛生・衛生法規の概念と変遷	講義	②
7～9	2. 医事法 (医療法、医師法、医療関係資格法)	講義	②
10～12	3. 保健衛生法 (地域保健法、健康増進法、学校保健安全法、がん対策基本法、肝炎対策基本法、自殺対策基本法、感染症に関する法、食品に関する法)	講義	②
13・14	4. 労働法と社会基盤整備 (労働基準法、労働安全衛生法、他労働関係法令)	講義	②
15	5. 環境法 6. まとめ	講義	②
授業の進め方 看護六法をもとに授業を進める。条文の意味が理解できるように解説をまじえ、テキストを用いて学習した内容の確認をする。最後に、事例を用いて看護職の法的責任について考える時間をもつ。 テキストや看護六法をもとに、法令の条文について、意味が理解できるように説明を加える。また、法令に関連した通知等を提示しながら授業を進める。			
テキスト 1. 看護六法, 新日本法規 : ① 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令, 医学書院 : ①②			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門基礎分野	開講時期	3 年前期～後期
科 目 名	公衆衛生学	単 位 数 (時間数)	2 単位(30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田吹 好美 (翔労働衛生コンサルタント事務所・産業保健師、衛生管理者・48 年)		

<科目目標>

公衆衛生の基本内容、生活者の健康保持増進に関する保健活動を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1～15	<p>1. 公衆衛生の概念</p> <p>1) 公衆衛生の機能 2) 公衆衛生の意義 3) 公衆衛生の対象 4) プライマリヘルスケア 5) ヘルスプロモーションの展開 6) ポピュレーションアプローチ 7) ハイリスクアプローチ 8) 国際的連携、WHO加盟国の役割</p> <p>2. 健康と環境</p> <p>1) わが国の環境の現状と対策 (1) 地球環境 i. 地球温暖化 ii. オゾン層の破壊 iii. アスベスト、放射性物質 iv. 水質汚染 v. 大気汚染 vi. 土壌汚染 (2) 公害 i. 大気汚染 ii. ダイオキシン (3) ごみ・廃棄物 i. 一般廃棄物 ii. 産業廃棄物 iii. 市町村と企業の責任 (4) 住環境 i. バリアフリー ii. 建築物の衛生管理、シックハウス症候群、アレルギー性疾患の増加 (5) 食品衛生 i. 食品の安全 ii. 食品衛生管理：食品安全確保対策、食品衛生管理制度</p> <p>2) 健康に及ぼす影響 (1) 環境問題からくる健康への影響 (2) 食生活がもたらす健康問題</p> <p>3. 疾病の疫学と予防</p> <p>1) 疫学調査 2) 感染性疾患の疫学と予防 (1) 発生状況、流行現象 (2) 予防の基本と防疫体制：感染予防対策、予防接種など (3) 最近注目される感染性疾患への取り組み：AIDS、結核、 トリインフルエンザ、SARS</p> <p>4. 健康に関連した指標</p> <p>1) 国勢調査 (1) 人口統計：総人口、年齢別人口、労働人口、 将来推計人口、世帯数、婚姻・家族形態 2) 人口静態 3) 人口動態 (1) 出生：出生率 (2) 死亡：死亡率、死産、周産期死亡、乳児死亡、死因の概要 4) 健康状態と受療状況 (1) 平均余命、平均寿命 (2) 健康寿命 (3) 有訴者の状況 (4) 有病率・罹患率 (5) 受療行動・受療率 (6) 入院期間 (7) 外来受診状況 5) 保健統計・指標 (1) 保健統計の意義、種類 (2) 患者調査・国民生活基礎調査・国民健康栄養調査・医療施設調査 (3) 医療費調査・医療施設調査・医療従事者調査・その他</p>	講義

回	授業内容	授業方法
1～15	<p>5. 保健活動</p> <p>1) 地域保健 (1) 地域保健法の理念と指針 (2) 健康日本 21 (3) 健康増進法 (4) 地域保健活動の場 i. 市町村保健センター ii. 保健所 (5) 医療法・医療計画</p> <p>2) 母子保健 (1) 母子保健法 (2) 母子健康手帳 (3) 保健指導・訪問指導 (4) 健康診査・健康教育 (5) 養育医療 (6) 健やか親子 21 (7) 児童虐待防止 (8) 母子保護法</p> <p>3) 精神保健</p> <p>4) 学校保健 (1) 学校保健安全法 (2) 健康診断・健康相談 (3) 感染予防 (4) 学校環境衛生</p> <p>5) がん対策基本法</p> <p>6) 難病支援法<難病の患者に関する医療等に関する法律> (1) 特定疾患調査研究事業 (2) 特定疾患治療研究事業 (3) 医療費公費負担</p> <p>7) 生活習慣病予防 (1) 主な生活習慣病の現状 (2) 栄養、運動、休息 (3) 喫煙・飲酒対策 (4) 健康教育と早期発見 (5) 循環器疾患の予防 (6) 糖尿病の予防 (7) 特定健康診査、特定保健指導</p> <p>8) 障害児・者対策</p> <p>9) 職場の健康管理 (1) 労働安全衛生法 (2) 健康管理・職業病の予防 (3) トータル・ヘルスプロモーション (4) 作業環境・作業環境管理 (5) ワーク・ライフ・バランス</p> <p>6. 保健活動における看護職の役割</p> <p>7. これからの公衆衛生</p> <p>1) 社会の変化と公衆衛生 (1) 少子高齢社会への対応 (2) 疾病構造の変化 (3) 危機管理</p> <p>2) 国際化社会における公衆衛生 (1) 国際保健医療協力の推進 (2) 健康危機管理</p>	講義
<p>授業の進め方 本科目では、公衆衛生の概念や保健統計等を学習し、人々の健康の保持・増進に向けた保健活動について学ぶ。</p>		
<p>テキスト</p> <p>1. 新体系看護学全書 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度②公衆衛生学(メヂカルフレンド社) 2. 国民衛生の動向 2021/2022 年版(厚生統計協会)</p>		
<p>評価方法 筆記試験</p>		